

日本の

東山旧岸邸より借用



とらや工房より借用



富士カントリークラブより借用

ぶ

第97回 JIA アーバントリップ 日本のこころに遊ぶ

2023年2月16日(木)

主催 (公社)日本建築家協会関東甲信越支部アーバントリップ実行委員会
協力 (株)新国際通信社

かなみ仏の里美術館 提供：栗生明+北川・上田総合計画



御殿場市は富士山周辺や箱根観光への交通拠点となる高原都市で、歴史ある避暑地として多数のゴルフ場を有し、近年は巨大アウトレットも人気を集めている。この御殿場の街には、戦後間もなくからの名建築が残り、また現代の名建築も次々と生まれている。伊豆スカイラインの起点である函南（かなみ）町は、厚い信仰心によって平安時代以降の多くの仏像が手厚く保存されてきた。そこには里人の信仰心の拠り所となるべく新しい美術館が設計された。今回のアーバントリップは、歴史ある地に存在感を放つ新旧の名建築をめぐることをテーマとして見学を行う。

企画・コーディネーター 宮島亨 山崎雅雄 中村雅子

■東山旧岸邸 (1969 年竣工) 設計:吉田五十八

岸信介邸は、1969(昭和 44)年竣工の建築家・吉田五十八の晩年の代表作品で、吉田の建築的特徴のなかから、工業生産材料の使用、各部屋の障子の荒組、また、食堂では押込戸、和室では吊束の廃止と欄間の吹き抜けなどをみることができる。近代数寄屋建築は、洋風の生活スタイルが導入されつつあった当時の日本において、伝統的ながらもモダンさをうまく取り入れていたことから高く評価された。

■とらや工房 (2007 年竣工) 設計:内藤廣建築設計事務所

建物は庭の広がりを受け止めるように緩やかに湾曲し円弧状に配され、喫茶室と販売所の間に作られた半外部空間は、庭の空気を引き込むような緑に溶け込むような空間設計が特徴です。

■富士カントリークラブ (1958 年竣工) 設計:アントニン・レーモンド設計事務所

クラブハウスは富士山麓の景観にマッチした木造、平屋風作り。クラブハウスとして初の登録有形文化財。富士山麓の景観にマッチした木造の山小屋風。レストランには富士の全姿がすっぽりと 1 枚ガラスの窓にはまる「ピクチャー・ウィンドウ」ガラスは開場当時の日本では製造が出来なかったため、初代山形章理事長、宮本正司がドイツから取り寄せられた。

■かなみ仏の里美術館 (2012 年竣工) 設計:栗生明総合計画事務所(現 栗生明+北川・上田総合計画)

かなみ仏の里美術館では、その精神性を計画の念頭に置き、『堂』としての佇まいを継承しています。桑原薬師堂に替わる仏像安置施設として、単なるキューブ(箱形)の建物ではなく、『堂』に相応しい屋根形状を意識し、かつ、桑原地区、ひいては函南町の象徴となる形態として、方形屋根を計画された。

日時: 2023 年 2 月 16 日(木)

8:15 新宿駅西口周辺集合(詳細は後日)
 10:45~12:45 東山旧岸邸+とらや工房(お茶とお菓子付)見学(120分)
 13:00~13:40 昼食(富士カントリークラブ)
 13:40~14:10 富士カントリークラブ 見学(30分)
 15:00~16:30 かなみ仏の里美術館 見学(90分)
 18:45 新宿駅西口広場 解散

見学先: 東山旧岸邸:静岡県御殿場市東山 1082-1
 とらや工房:静岡県御殿場市東山 1022-1
 富士カントリークラブ:静岡県御殿場市東山 2472
 かなみ仏の里美術館:静岡県田方郡函南町桑原 89-1

講師: 東山旧岸邸:川嶋健史氏(水澤工務店)
 かなみ仏の里美術館:矢田長春氏(かなみ仏の里美術館長) 栗生明氏(栗生明+北川・上田総合計画)
 案内: とらや工房:野田亜矢子氏(虎玄)
 富士カントリークラブ:菊地温子氏(富士カントリークラブ)

交通案内: チャーターバス及び一部徒歩

参加対象: 会員及び一般・学生

参加費: 5,000 円(入館料、昼食、とらやお茶菓子、資料代、保険料含む)

定員: 40 名(原則先着順)

申込方法: 参加ご希望の方は、下記 Google フォームよりお申込み願います。

<https://forms.gle/vAGwFJZa1U3J9ju29>

問合せ先: (公社)日本建築家協会関東甲信越支部事務局 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館 4F 担当:中山

Email:urbantrip@jia.or.jp TEL:03-3408-8291 FAX:03-3408-8294

※原則、参加者名簿は参加者及び協賛各社へ配布されます。

※2/13 以降のキャンセルは参加費 100%が発生しますのでご注意願います。